

◆◆特集◆◆

★わかりやすい道案内に向けた道路標識の改善★
(国土交通省 道路局 企画課)

わかりやすい道案内に向けた道路標識改善の取組として、「案内標識の英語表記改善」、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた道路標識改善」、「高速道路ナンバリングの検討」について紹介する。

◆◆道路法令 Q&A◆◆

★一般国道の指定区間制度について★
(国土交通省 道路局 路政課)

一般国道の指定区間制度について解説する。

◆◆TOPICS◆◆

★名古屋駅地区における公共空間の利活用を通じた
まちづくり社会実験について★
～民間活力を導入した多機能な歩行者案内板設置の実証実験～
(名古屋市 緑政土木局 路政部 道路利活用課)

名古屋駅地区では、平成23年度から官民が連携し、「名古屋駅地区における公共空間の利活用を通じたまちづくり社会実験」を行い、公共空間で得られる事業収益を公共還元していく仕組みづくりについて検証を行っています。平成27年4月からは、新たなメニューとして、広告を添加した歩行者案内板を設置する実証実験を行っています。本稿では、当該社会実験のうち、特にこの歩行者案内板の実証実験について、実施に至る経緯や検討事項などについてまとめました。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★能越自動車道 能越県境PA（石動山側）における
占有入札制度による自動販売機の導入について★
（北陸地方整備局道路部路政課／富山河川国道事務所道路管理第一課）

平成 27 年に能越自動車道七尾氷見道路が全線開通し、「能越県境PA」が開設されました。一方、占有入札制度が時を同じく運用が開始され、当該PAにおける自動販売機の導入にあたり、同制度を活用した占有希望者を募集することになりました。国の管理する国道において、初めての試みとなることから、七尾氷見道路の概要とあわせ、同制度の適用にあたっての検討状況をご紹介します。

.....

★北陸新幹線開業効果の持続発展に向けて★
（石川県土木部道路整備課／道路建設課／都市計画課）

北陸新幹線金沢開業効果を持続発展させるための石川県における南北に長い本県の幹線道路の整備に関する取組や金沢市中心部における歩行環境の向上、また、道路を管理する上での官民が一体となって美化活動を行うアドプト制度の紹介や、冬期における道路の安全安心を確保するための除雪体制の確立など取組状況について紹介します。

.....

★石川県中能登町 通学路整備と安全対策について★
～快適な通学路空間確保の実現に向けて～
（中能登町 土木建設課）

石川県中能登町は、多様で質の高い教育の推進を図る「教育の町 中能登」の実現を重要施策の一つとしています。私たち道路管理者は、当町の大切な財産である小・中学生の尊い命を守るために、町内の小学校及び中学校の通学路や周辺道路を整備し、また教育委員会やPTA、警察など各関係機関と連携して通学路の安全対策に取り組んでいます。

◆◆編集後記◆◆

夏の風物詩のひとつに“盆踊り”があります。古くから、その地域ならではの踊りや歌が、日本の夏を彩ってきました。私の住む地域でも、お盆が近づくと夏の恒例行事として、会場である公園にやぐらが組まれたり、提灯が飾られたりと“盆踊り”の準備が始まります。当日は、地域住民に加え、帰省者や観光客など、多くの人が太鼓の音や歌に合わせて輪になって踊り、地域交流を深めています。その様子を目にすると、子供の頃、浴衣を着て下駄を鳴らしながら“盆踊り”を楽しんでいたことを懐かしく思い出します。

私にとって、“盆踊り”は、夏の楽しみのひとつですが、本来は、お盆に帰ってきた先祖の霊を供養するために踊る仏教行事でした。平安時代の中期、僧侶によって念仏を広めるために「踊り念仏」（自ら念仏を唱えながら踊ること）が考案され、踊りながらであれば念仏を覚えることができると庶民の間で広がっていきました。そののち、お盆の時期に先祖の霊を供養する行事にも「踊り念仏」が取り入れられ、“盆踊り”となったと言われていきます。次第に、念仏を唱える者と踊りを踊る者を別々とする「念仏踊り」が流行し、より一層の供養のために、念仏や太鼓の音に合わせて一心に踊る行事へと移り変わっていきました。このように、踊りが重視されるようになると、振り付けに工夫を凝らしたり、上手さを競い合ったりと“盆踊り”は先祖の供養だけでなく地域住民の楽しみとなり、夏の恒例行事として全国的に大流行したそうです。そして、故郷への想いや豊作祈願、地域の特徴などを歌った民謡にのせて踊るようになり、地域住民が交流を深めるための娯楽行事として定着していきました。

“盆踊り”の振り付けは、シンプルで繰り返す動作が多く、覚えやすいものになっています。これまでの長い歴史において、地域住民によって身振りや手振りで伝えられ、受け継がれてきました。思い返してみると、事前に“盆踊り”の練習をした記憶はなく、当日、踊りが上手な人の真似をしたり、振り付けの説明を聞いたり、その場で覚えていたような気がします。なかでも、思い出に残っているのは、「月が一でたで一、月が一でた一あヨイヨイ♪」という節で始まる「炭坑節」です。今でもこの歌が流れると、当時の、「掘って一掘って一、また掘って一」という振り付けがすぐに頭に浮かび、体が自然と動いてしまいます。

海外へ移住した人々による“盆踊り”も世界中で開催されています。なかでも、約150万人の日系人が住むブラジルでは、遠く離れても日本の心を忘れないようにと、日本のお盆の時期に合わせて“盆踊り”を行っているようです。日系人を中心に多様な民族の人々が、ひとつの輪になり“盆踊り”（現地では“Bon Dance”）を楽しみながら交流を深めています。最近では、“Bon Festival”として、日本食の出店や伝統工芸品の展示など、日本文化を紹介する盛大なイベントとなっているそうです。

時代や場所が変わっても、お盆になると、人々は輪になって“盆踊り”を楽しみ交流を深めています。古くから伝承されてきた“盆踊り”が、次の世代へと伝わっていくことを願っています。今年は、久しぶりに浴衣を着て“盆踊り”に行ってみようかなと思っています。（K）